

石狩市の財政 2007



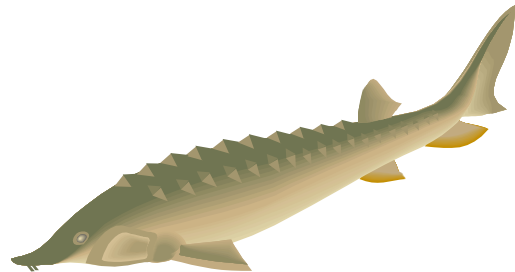
石 狩 市

はじめに

この「石狩市の財政」は、市民の皆様が「財政」というものを考える際の補助資料として活用していただくことを目的に発行しているものです。

本市では平成19年度より5年間で収支バランスの均衡を図る「石狩市財政再建計画」を策定し、財政構造改革を今まで以上に強力に押し進めております。

今後の市の財政状況を考える上で本資料が参考となればと思いますので、是非ご一読下さい。



目次

1	地方公共団体の会計区分	P 1
(1)	一般会計	P 1
(2)	特別会計	P 1
(3)	公営企業会計	P 1
2	平成18年度一般会計決算の概要	P 2 ~ 13
(1)	歳入	P 2
(2)	歳出	P 9
3	転換期の財政	P 14 ~ 19
(1)	市税	P 14
(2)	義務的経費	P 15
(3)	基金残高	P 16
(4)	市債残高	P 17
(5)	実質的に市が抱えている債務の残高	P 18
4	財政運営の健全度	P 20 ~ 22
(1)	経常収支比率	P 20
(2)	公債費負担比率	P 21
(3)	公債費比率	P 21
(4)	起債制限比率	P 21
(5)	実質公債費比率	P 22
(6)	財政力指数	P 22
5	財政再建計画	P 23 ~ 24
(1)	再建計画策定の背景	P 23
(2)	PLAN-DO-CHECK-ACT	P 24

1 地方公共団体の会計区分

(1) 一般会計

地方公共団体の会計は、大きく分けて「一般会計」、「特別会計」、「公営企業会計」の3つに区分されます。このうち、一般会計は、市の会計の中心をなすもので、福祉や教育など行政運営の基本的な経費を計上する会計です。

(2) 特別会計

特別会計は、地方公共団体が特定の事業を行う場合、その他特定の収入で特定の支出にあて、一般会計と区分して経理する必要がある場合に設置するものです。なお、特別会計の設置については、法令に義務付けられているものを除き、すべて条例によらなければならないとされています。

本市では、国民健康保険事業特別会計、老人保健特別会計、介護保険事業特別会計、国民健康保険診療所特別会計、介護サービス事業特別会計、土地取得特別会計、下水道事業特別会計、特定環境保全公共下水道事業特別会計、個別排水処理施設整備事業特別会計、水道事業特別会計、簡易水道事業特別会計の11の特別会計を設置しています。

ア 法令に義務付けられているもの

国民健康保険事業特別会計、老人保健特別会計、介護保険事業特別会計、国民健康保険診療所特別会計、介護サービス事業特別会計

イ 市の条例で設置しているもの

土地取得特別会計、下水道事業特別会計、特定環境保全公共下水道事業特別会計、個別排水処理施設整備事業特別会計、簡易水道事業特別会計

(3) 公営企業会計

特別会計のうち、地方公営企業法の適用を受けるものです。

本市では、水道事業会計を設置しています。なお、下水道事業特別会計については、平成20年度より地方公営企業法の適用を受けることになっております。

2 平成18年度一般会計決算の概要

(1) 歳入

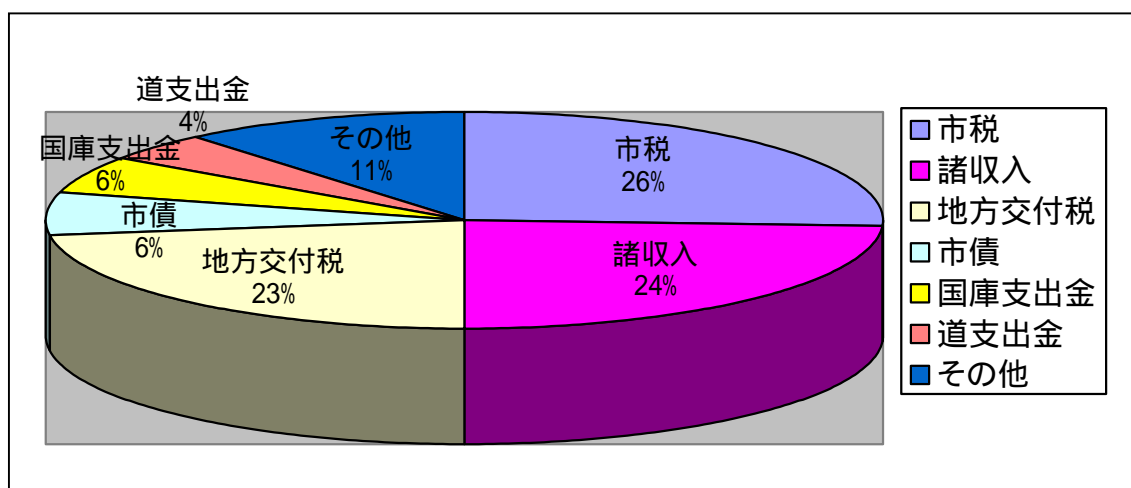
市民生活の向上のために様々な仕事（事業）が行われていますが、それを支えるためには、財源が必要となります。財源には市民税や固定資産税などの市税、自治体の財政力に応じて交付される地方交付税、国や道からの補助金、借入金である市債などがあり、平成18年度一般会計の決算額は表1のとおりで、図1は科目別割合を示しています。

表1 平成18年度一般会計歳入決算額

(単位:千円)					
区 分	金 額	前年比	区 分	金 額	前年比
1 市税	7,558,467	-0.7%	12 交通安全対策特別交付金	16,942	9.5%
2 地方譲与税	866,982	32.4%	13 分担金及び負担金	225,293	34.4%
3 利子割交付金	20,466	-30.7%	14 使用料及び手数料	399,081	34.2%
4 配当割交付金	11,236	55.1%	15 国庫支出金	1,645,804	-13.5%
5 株式等譲渡所得割交付金	8,340	-12.0%	16 道支出金	1,174,074	13.0%
6 ゴルフ場利用税交付金	88,062	-0.1%	17 財産収入	237,632	172.7%
7 地方消費税交付金	618,336	6.7%	18 寄附金	20,977	365.1%
8 自動車取得税交付金	126,414	-4.9%	19 繰入金	498,099	-65.8%
9 国有提供施設等所在市町村助成交付金	4,173	-9.7%	20 繰越金	23,143	-82.2%
10 地方特例交付金	118,617	-30.6%	21 諸収入	7,132,098	-1.0%
11 地方交付税	6,685,274	-1.0%	22 市債	1,888,600	-55.0%
			計	29,368,110	-9.8%

資料：平成18年度決算統計

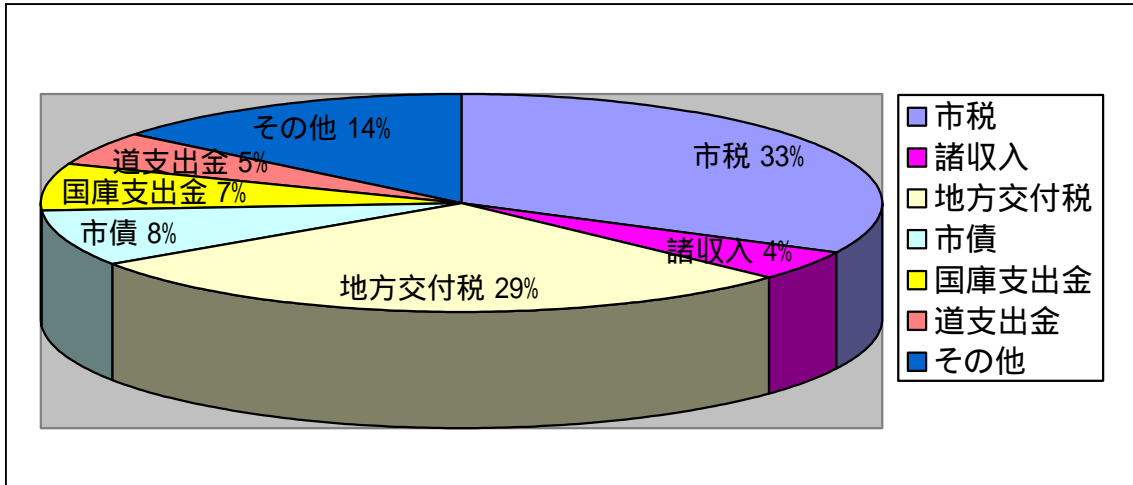
図1 平成18年度一般会計歳入決算額における科目別割合




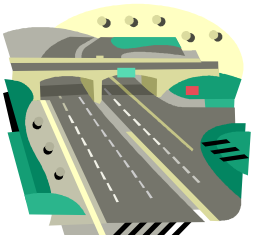


皆さん、2ページの表やグラフを見て、諸収入の金額が異常に多いのに気付かれませんか。これは、石狩市土地開発公社の金利負担を軽減することを目的に、年度当初に多額の無利子貸し付けを行い、年度末に貸付金額と同額を回収しているためです。この金額は、61億234万円あることから、実質の歳入決算額は、293億6,811万円から61億234万円を差し引いた232億6,577万円となり、2ページの図1も次の参考図のようになります。

(参考図) 平成18年度一般会計歳入決算額における科目別割合
(貸付金の年度内回収分を除く)



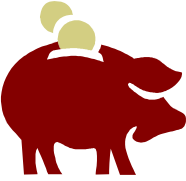
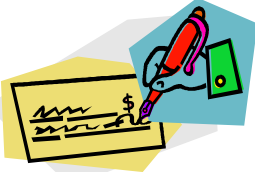
用語解説：平成18年度における市の歳入科目


歳入科目名	内 容
1 市税 	<p>所得税など国が課税する国税に対し、市の課税権により主に市民の皆さんから市に納めていただく税です。</p> <p>本市には市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、都市計画税、入湯税などがあります。</p>
2 地方譲与税 	<p>徴収の利便性などの問題から、一旦国税として徴収され、その後、一定の基準により道や市町村に譲与される税です。</p> <p>本市には、自動車重量譲与税、地方道路譲与税、特別とん譲与税があり、人口規模や市町村道の面積・延長、外国貿易船のトン数などを基準として配分し譲与されます。</p>

<p>3 利子割交付金</p> 	<p>銀行預金利子などの利子等にかかる住民税については、金融機関等を通じて道民税利子割として課税されています。この税収から、道が取扱費として5%を控除した残りの95%のうち5分の3がその市町村の個人道民税の額を基準に市町村に交付されます。</p>
<p>4 配当割交付金</p> 	<p>道民税として、平成18年1月1日以降に支払われる株式などの配当金について課税され、一定相当額が交付されます。</p>
<p>5 株式等譲渡所得割交付金</p> 	<p>道民税として、平成18年1月1日以降に発生する株式などの譲渡益について課税され、一定相当額が市町村に交付されます。</p>
<p>6 ゴルフ場利用税交付金</p> 	<p>ゴルフ場利用税は、ゴルフ場の利用者に課される税金で、道が収納したゴルフ場利用税の70%が、ゴルフ場所在の市町村に交付されます。</p>
<p>7 地方消費税交付金</p> 	<p>私たちが買物などをしたときは、お店に5%の消費税を納めますが、このうち国の消費税率は4%で、残りの1%が地方消費税として道の収入となります。この税収のうち50%が国勢調査の人口と事業所統計の従業者数を基準に市町村に交付されます。</p>
<p>8 自動車取得税交付金</p> 	<p>自動車取得税は、自動車の取得に対して課される税金で、この税収から、道が取扱費として5%を控除した残りの95%のうち70%が市道の面積や延長を基準に市町村に交付されます。</p>

<p>9 国有提供施設等所在市町村助成交付金</p> 	<p>自衛隊が使用する演習場等の用に供する固定資産が所在する市町村に対して国から交付されます。</p>
<p>10 地方特例交付金</p> 	<p>国が政策で行った所得税減税で影響を受けた地方税の減収を補うために国から交付されるお金です。</p>
<p>11 地方交付税</p> 	<p>市町村によって生じている税収入の格差を是正し、一定の行政水準を保つために国から交付される交付金です。国税3税(所得税及び酒税の32%、法人税の35.8%)に消費税の29.5%、たばこ税の25%を加えた5税が原資となっています。</p>
<p>12 交通安全対策特別交付金</p> 	<p>市町村が道路交通安全施設の整備を行う経費にあてるため、交通反則金を市町村の交通事故発生件数等を基準に配分し交付されます。</p>
<p>13 分担金及び負担金</p> 	<p>分担金は、市が一部または特定の者に対し、特に利益のある事務事業を行う場合に、その必要な費用に充てるため、利益を受ける者から徴収するお金です。</p> <p>一方、負担金も一定の事務事業について、特別の利害関係がある人から、その事業に必要な経費を受益の受ける程度に応じて市が課する金銭的な給付です。</p>
<p>14 使用料及び手数料</p> 	<p>使用料は、市が所有し、または管理している施設を利用する時に、市に納付されるお金です。納付された使用料は、その施設を維持、管理するための経費の財源となります。</p> <p>手数料は、市が特定の人のために行う行政サービスの対価として市に納付されるお金です。納付された手数料は、その行政サービスを行うための経費の財源となります。</p>

<p>15 国庫支出金</p> 	<p>市が行う事務事業に対し、その財源の一部または全部として国から用途を特定されて交付される収入です。</p>
<p>16 道支出金</p> 	<p>市が行う事務事業に対し、その財源の一部または全部として道から用途を特定されて交付される収入です。</p>
<p>17 財産収入</p> 	<p>市が所有する財産等を貸し付けることによって生じる対価や基金の運用利息等の財産運用収入と、市の財産を譲渡することなどにより生じる財産売却収入とがあります。</p>
<p>18 寄附金</p> 	<p>市に対する金銭の無償譲渡で、用途を特定しない一般寄附金と用途を特定した指定寄附金とがあります。</p>
<p>19 繰入金</p> 	<p>一般会計の場合においては、各種基金を取り崩して一般会計に繰り入れられるお金です。</p>
<p>20 繰越金</p> 	<p>前年度の決算で生じた余剰金を、翌年度の歳入に編入するときの収入です。</p>

<p>21 諸収入</p> 	<p>他のどの歳入科目にも含まれない収入をまとめた科目の名称で、延滞金、預金利子、貸付金元利収入、雑入などがあります。</p>
<p>22 市債</p> 	<p>市が社会資本の整備等を行うために必要な財源を調達するための債務です。また、近年は国や地方公共団体の財源不足や、減税による財源の減少を補てんするために地方債を発行することもあります。</p>



(質問): 平成18年度の歳入科目を、国、北海道、市民からの収入に分類すると、どうなりますか。

(回答): 大まかに分類すると、次のとおりになります。なお、繰入金、繰越金、市債については、お金のやりくりのための収入であることから、「その他の収入」として分類しています。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 国からの収入：地方譲与税、国有提供施設等所在市町村助成交付金、地方特例交付金、地方交付税、交通安全対策特別交付金、国庫支出金 2 北海道からの収入：利子割交付金、ゴルフ場利用税交付金、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、道支出金 3 主に市民からの収入：市税、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、諸収入 4 その他の収入：繰入金、繰越金、市債 |
|---|

用語解説：歳入の分類

ア 自主財源と依存財源

市に入ってくるお金の調達方法に着目した分類で、市が自主的に収入できる財源が自主財源、国または道の意思で定められた額を交付されたり、割り当てられたりする財源が依存財源です。自主財源の割合が高いほど、市が自主的に財政活動を行うことができます。

(ア) 自主財源：市税、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入がこれに該当します。



(イ) 依存財源：地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、ゴルフ場利用税交付金、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金、地方特例交付金、地方交付税、交通安全対策特別交付金、国庫支出金、道支出金、市債がこれに該当します。



イ 一般財源と特定財源

市に入ってくるお金の使途が特定されているか否かに着目した分類で、財源の使途が特定されないものが一般財源、財源の使途が特定されているものが特定財源です。一般財源の割合が高いほど、弾力的な財政運営を行うことができます。

(ア) 一般財源：市税、地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、ゴルフ場利用税交付金、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金、地方特例交付金、地方交付税、交通安全対策特別交付金、財産収入、寄附金、繰越金がこれに該当します。

(イ) 特定財源：分担金及び負担金、使用料及び手数料、国庫補助金、道支出金、繰入金、諸収入、市債がこれに該当します。

使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入、市債等については、その収納した目的、性格等によって一般財源にも特定財源にもなりえます。

(2) 歳出

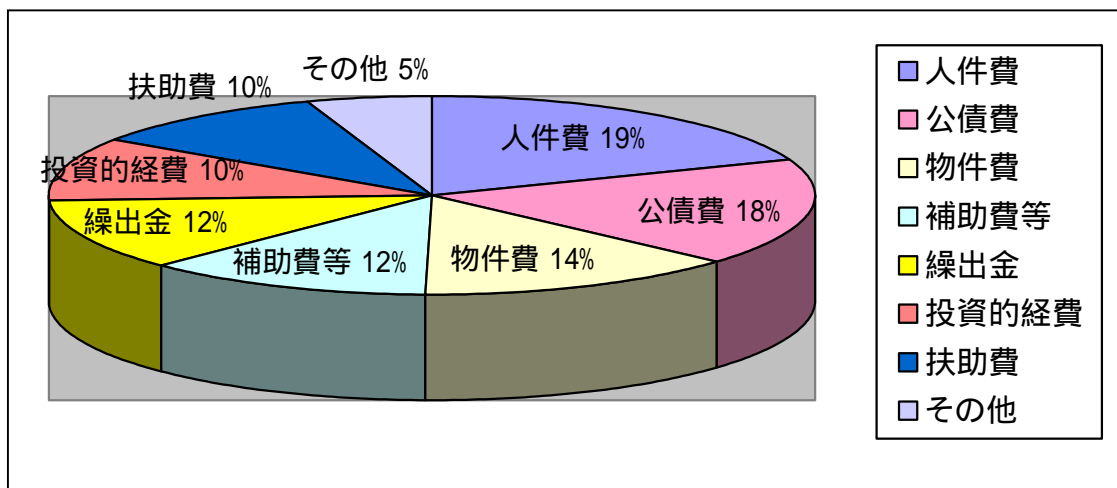
本市の予算がどの分野にどれだけ配分されているかを知るために、歳出をその行政目的別に分類したものが目的別経費（表2の左側参照）であり、また財政構造をよりわかりやすくするために、扶助費や公債費など歳出をその性質別に分類したものが性質別経費（表2の右側参照）で、図2は性質別経費の科目別割合（歳入と同様に、石狩市土地開発公社や石狩サービス株式会社への年度内回収分の貸付金を除く）を示しています。

表2 平成18年度一般会計歳出決算額

目的別経費 (単位:千円)			性質別経費 (単位:千円)		
区分	金額	前年比	区分	金額	前年比
1 議会費	297,434	-6.2%	1 人件費	4,410,112	-6.7%
2 総務費	2,597,270	-52.9%	2 物件費	3,145,903	-6.7%
3 民生費	5,772,562	0.3%	3 維持補修費	850,161	-21.1%
4 衛生費	2,116,373	-20.8%	4 扶助費	2,373,376	5.0%
5 労働費	32,940	-1.1%	5 補助費等	1,473,513	-44.5%
6 農水産業費	731,484	-7.6%	一部事務組合に対するもの		
7 商工費	381,536	-27.4%	その他	1,356,590	-0.6%
8 土木費	9,307,000	-6.3%	小計	2,830,103	-29.6%
9 消防費	1,049,531	-5.0%	6 公債費	4,032,759	15.4%
10 教育費	2,888,643	22.2%	元利償還金	4,032,759	15.4%
11 公債費	4,065,973	16.0%	一時借入金利子	32,802	260.0%
計	29,240,746	-10.1%	小計	4,065,561	16.0%
			7 積立金	45,408	-97.8%
			8 投資及び出資金・貸付金	6,445,704	-1.7%
			9 繰出金	2,687,837	-1.3%
			10 投資的経費		
			普通建設事業費	2,386,581	7.2%
			災害復旧事業費	0	
			失業対策事業費	0	
			小計	2,386,581	7.2%
			計	29,240,746	-10.1%

資料：平成18年度決算統計


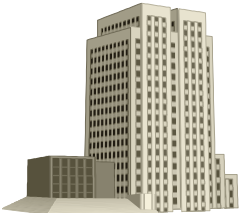
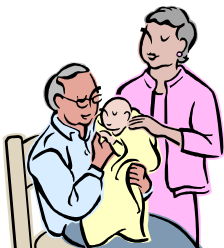

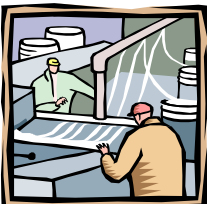
図2 平成18年度一般会計歳出決算額（性質別経費）の科目別割合
（貸付金の年度内回収分を除く）







用語解説：平成 18 年度における市の歳出科目

ア 目的別経費





市の経費を、行政目的によって分類したもので、市の予算及び決算において最も大きな区分である「款（かん）」の区分を基準とした分類となっています。目的別経費では、行政分野ごとの大まかな予算の比重を知ることができます。また、議会において予算を審議する場合にもこれが使われます。

歳出科目名	内 容
1 議会費 	議会の活動にかかる経費です。議員の報酬や手当、議会や委員会の運営経費などがあります。
2 総務費 	市役所の管理・運営、情報化推進、統計調査、まちづくり、財政運営、国際交流、広報広聴、コミュニティの推進、戸籍関係事務、税の賦課・徴収、選挙などにかかる経費です。
3 民生費 	高齢者や障がい者福祉、児童福祉、医療給付や生活保護など、安定した社会生活をするためにかかる経費です。
4 衛生費 	病気予防のための各種検診、予防接種、ごみ処理、環境対策など、健康で衛生的な生活環境を保持するためにかかる経費です。
5 労働費 	失業対策や勤労者のための各種施設の設置、管理にかかる経費です。

<p>6 農水産業費</p> 	<p>農業、水産業など、第一次産業の振興にかかる経費です。</p>
<p>7 商工費</p> 	<p>商工業の振興、企業誘致、観光の振興にかかる経費です。</p>
<p>8 土木費</p> 	<p>道路や公園の整備、除排雪、港湾整備、都市計画、公営住宅などにかかる経費で、下水道事業特別会計への繰出金も含まれています。</p>
<p>9 消防費</p> 	<p>防火・消火活動、救急・防災活動、消防車両の整備などのための経費です。なお、石狩市の場合は、近隣の自治体と一部事務組合を設立し、共同で事務処理を行っていますが、この組合に対する負担金は消防費のほとんどを占めています。</p>
<p>10 教育費</p> 	<p>小中学校、公民館、図書館、スポーツ施設の建設・管理・運営、生涯学習の推進、文化財の保護などにかかる経費です。</p>
<p>11 公債費</p> 	<p>過去に借入れた市債や一時借入金の元金や利子などの償還にかかる経費です。</p>

イ 性質別経費

市の経費を、その経済的性質を基準として分類したものです。性質別に分類することは、市の財政の体質を分析するうえで意義があります。分析の結果から財政運営の指針を見つけ出すことができます。

歳出科目名	内 容
<p>1 人件費</p> 	<p>職員給、議員報酬、各種委員報酬、共済組合等への負担金など、常勤職員や非常勤の特別職の勤労の対価として支払われる一切の経費です。</p> <p>ただし、道路や公園の整備など普通建設事業に携わる職員の人件費については、普通建設事業費に区分されます。</p>
<p>2 物件費</p> 	<p>賃金や旅費、交際費、需用費（消耗品費、光熱水費等）役務費（通信運搬費、手数料等）委託料など、資産として残らない消費的な経費の総称です。</p>
<p>3 維持補修費</p> 	<p>市が管理する公共施設の効用を保全するための経費です。建物の大規模改修等は普通建設事業費に、備品等の修繕費は物件費に区分されます。なお、道路の除排雪経費もここに分類されます。</p>
<p>4 扶助費</p> 	<p>市が各種の法令（生活保護法、児童福祉法、老人福祉法等）や条例によって、お金や物品を被扶助者に提供する経費で、生活保護費、児童手当、医療費助成、就学援助などがあります。</p>
<p>5 補助費等</p> 	<p>補助費等に区分される経費は、その支出の目的、根拠、対象等によって多種多様です。主な経費としては、団体に対する負担金や補助金、報償費、公営企業会計への繰出金等があります。</p> <p>なお、本市は、消防、港湾管理など、他自治体と共同して事務処理を行うための一部事務組合を数多く設立しているのが特徴で、平成18年度決算におけるこれら組合に対する負担金の割合は、補助費等全体の6.2%程度を占めています。</p> <p>ごみ処理については、平成18年度より北石狩衛生組合を解散し、北石狩衛生センターとして、本市の組織内に再編されています。</p>

<p>6 公債費</p> 	<p>市が借り入れた市債の元利償還金及び一時借入金の償還利子です。</p>
<p>7 積立金</p> 	<p>積立金とは、収支不足の際にその穴埋めをするための基金や特定の目的のために設けられた基金などに積み立てるための経費です。</p>
<p>8 投資及び出資金・貸付金</p> 	<p>投資及び出資金とは、公益上の必要性から、共同で事業を行う場合、その他財政援助を目的として投資する場合や、財団法人への出捐金として支出する場合の経費です。 また、貸付金とは、特定の政策目的のために貸付けられる経費で、土地開発公社貸付金や石狩サービス(株)運営資金貸付金などがあります。</p>
<p>9 繰出金</p> 	<p>会計間で、他の会計に支出される経費です。本市では一般会計から特別会計に支出される経費のことです。</p>
<p>10 投資的経費</p> 	<p>その支出の効果が資本の形成に向けられ、施設等が将来に残るものに対して支出される経費をいい、次のとおり普通建設事業費、災害復旧事業費、失業対策事業費があります。 普通建設事業費：道路の改良、公園の新設、小中学校や図書館などの建設事業にかかる経費。</p>

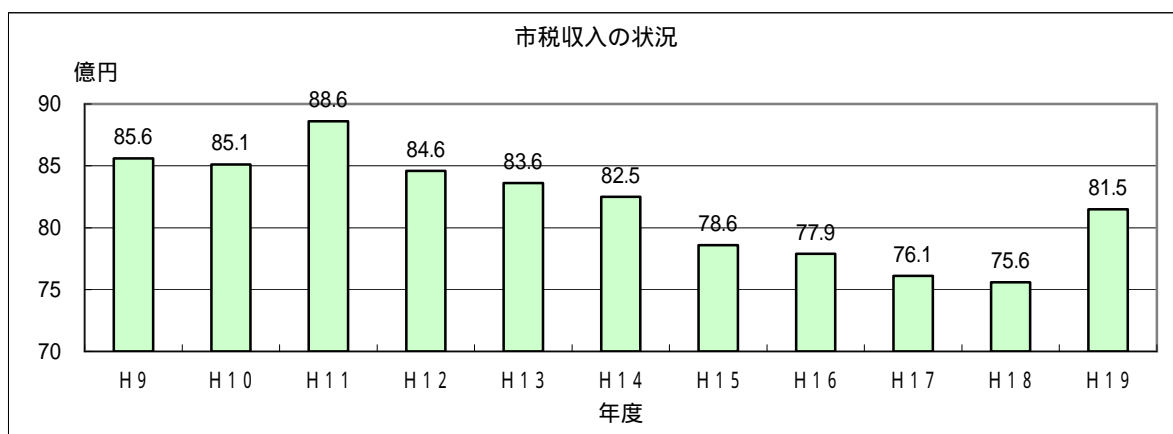
3 転換期の財政

(1) 市税

市税収入は、平成11年度の約88.6億円をピークに平成18年度まで減少傾向にありました(図3参照)。特に平成18年度は、景気低迷による税収の伸び悩みに加え、3年に一度の固定資産税の評価替え(1)の年であったため、更に税収が落ち込み、決算額は約75.6億円と、ピーク時に比べて12億円近くも落ち込みました。

しかし、三位一体の改革による国からの税源移譲(所得税・住民税)が平成19年度から行われることにより、19年度は税収が増収へと転じています(予算ベース)(ただし、これまで国から税源移譲分として譲与されていた所得譲与税と住民税等調整金は廃止され、また税収の伸びにより交付税が減少となるため、歳入総額では前年とほぼ同額となる見込みです)。

図3 市税の推移



注：H19は予算ベース

資料：各年度決算統計

1 評価替え？

固定資産税は、固定資産の価格すなわち「適正な時価」を課税標準として課税されるものです。このため、土地と家屋については原則として3年間評価額を据え置く制度、換言すれば、3年ごとに評価額を見直す制度がとられているところです。

平成18年度は、評価替えの年に当たり、地価や建築物価の下落を反映した評価替えにより、固定資産税・都市計画税の減少となりました。

(2) 義務的経費

義務的経費とは、法令あるいはその性質上支出が義務づけられている「人件費、扶助費（生活保護費、医療費助成など）、公債費」の合計をいい、その歳出総額に占める割合が高いほど、財政の硬直化が進んでいることを示します。

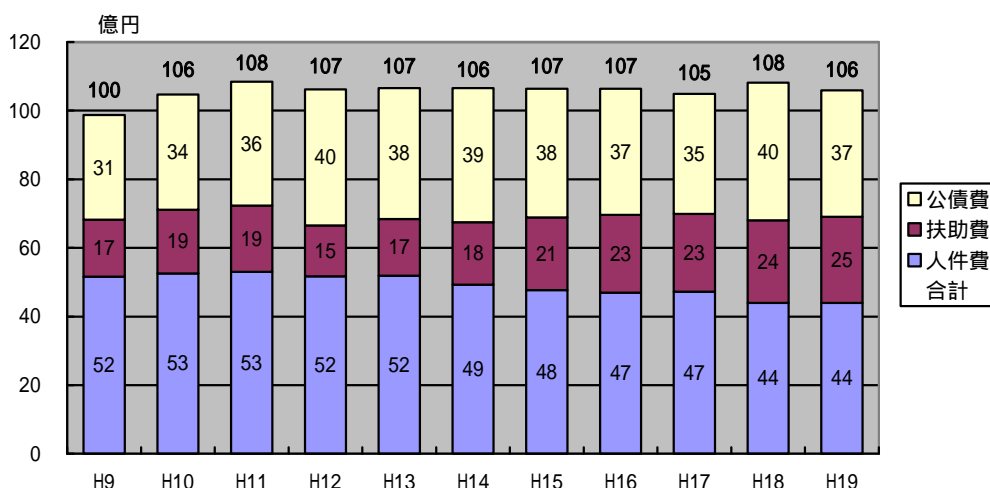
この経費は近年上昇傾向にあり、市の財政を硬直化させていますが、その中でも特に公債費と扶助費が硬直化の大きな要因となっております（図4参照）。

しかし、公債費に関しては、平成18年度に26億円規模の借換を行って公債費の平準化を計りました。また、財政再建化計画に則り、今後5年間新発債の発行を抑えることから、今後は減少傾向に転じていきます。

一方、扶助費に関しては、近年急速な高齢化により、増加傾向に歯止めがかからない状況となっております。また、扶助費に特別会計（国民健康保険事業・老人保健・介護保険事業）への繰出金を加えた社会保障費（図5参照）も増え続けていることから、今後の高齢化と相まってさらなる増加が予想されます。

図4 義務的経費の推移

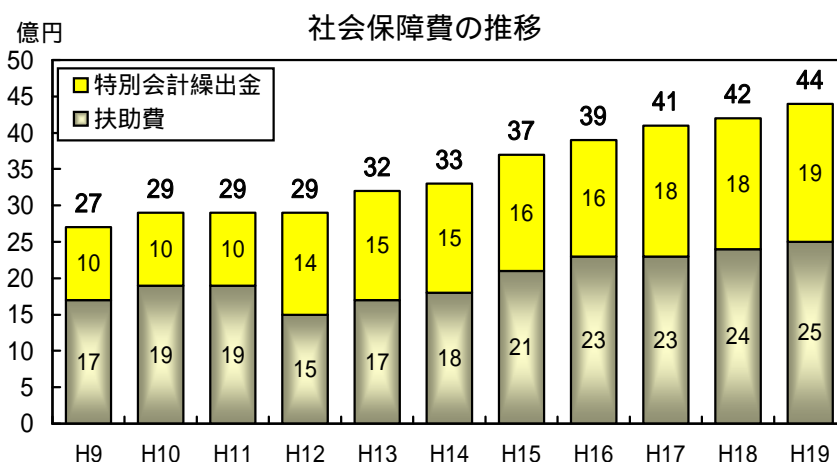
資料：各年度決算統計



注：H19は予算ベース

図5 社会保障費（扶助費＋国保・老人保健・介護保険特別会計繰出金）の推移

資料：各年度決算統計



注：H19は予算ベース

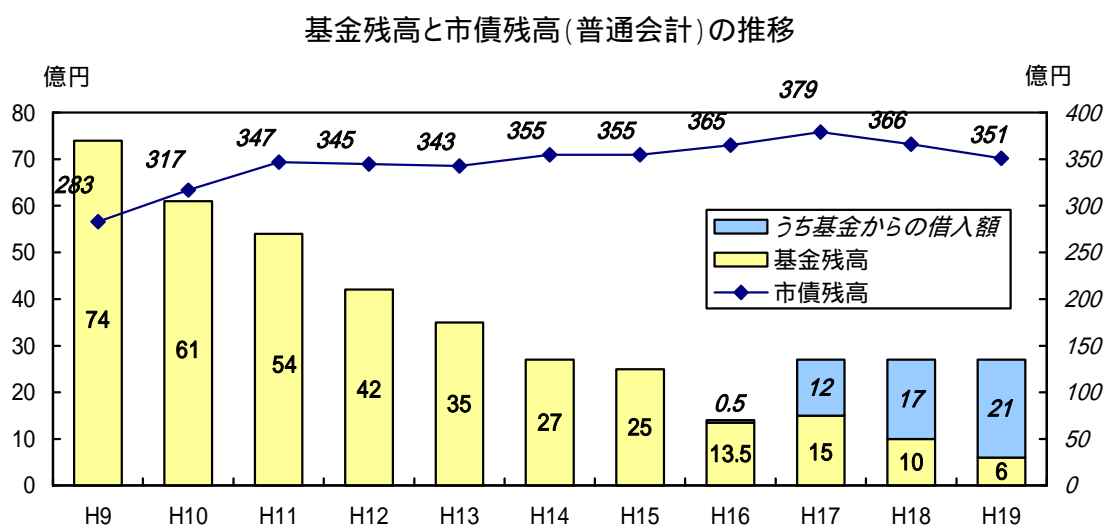
(3) 基金残高

基金とは市の貯金のことであり、その種類には**財政調整基金**(₂)、**減債基金**、特定目的のための基金があります。これまで積立をしてきた基金も平成9年度以降の歳入不足による取り崩しにより急激に残高が減少し(図6参照) ほとんど底を突いている状況です。

そこで、現在は本来特定の目的に利用する基金から一時的に借入を行い、財源不足を補っておりますが、現在のペースで借入をしていくと、現金ベースでの基金は、数年で枯渇してしまいます。そのため、今後は基金からの繰入れに頼らなくても経営できる財政運営が必要になっていきます。

図6 基金残高の推移

資料：各年度決算統計



注：H19は予算ベース

2 財政用語解説(基金)

財政調整基金：災害の発生等による不時の支出の増加や経済不況による予期せぬ収入減により財政運営が困難にならないよう、財源に余裕のある年度に積立を行うこととされている基金です。

減債基金：公債費の償還が毎年度の財政運営に影響を与えないよう計画的に償還するために積み立てることとされている基金です。

財政運営基金：一般的に上記の2つの基金が、年度間の財源の不均衡を調整するための積立金となります。このため、市では財政調整基金と減債基金を合算したものを便宜上「財政運営基金」と呼んでいます。

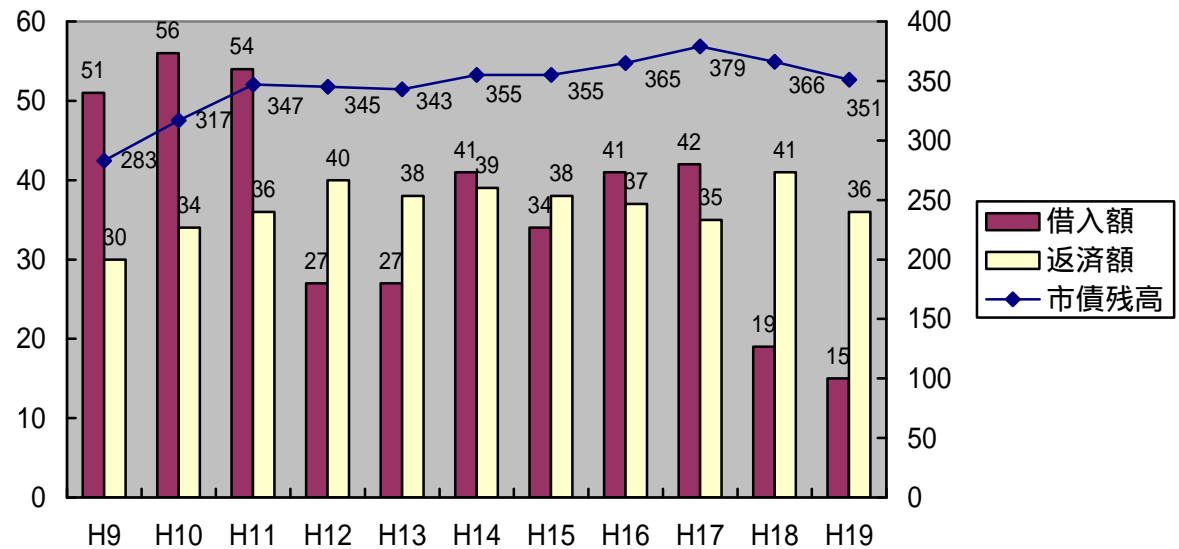
(4) 市債残高

近年続いていた市債残高の増加は、平成17年度をピークに減少に転じています(図7参照)。これは、平成18年度に「公債費平準化」を目的とした借換債の発行(図8参照)

財政再建化計画に則った新発債発行の抑制の2本建てで公債費対策を講じた結果です。また、今後も建設事業の規模を縮小し、新規発行を抑えていく方向であることから、この傾向は続いてきます。

しかし、平成18年度末の残高も367億円と、依然として管内他市と比較しても高い水準にあり、市民1人当たりになると約60万円の借金を抱えていることから、更なるスピードで公債費圧縮を推し進める必要があります。

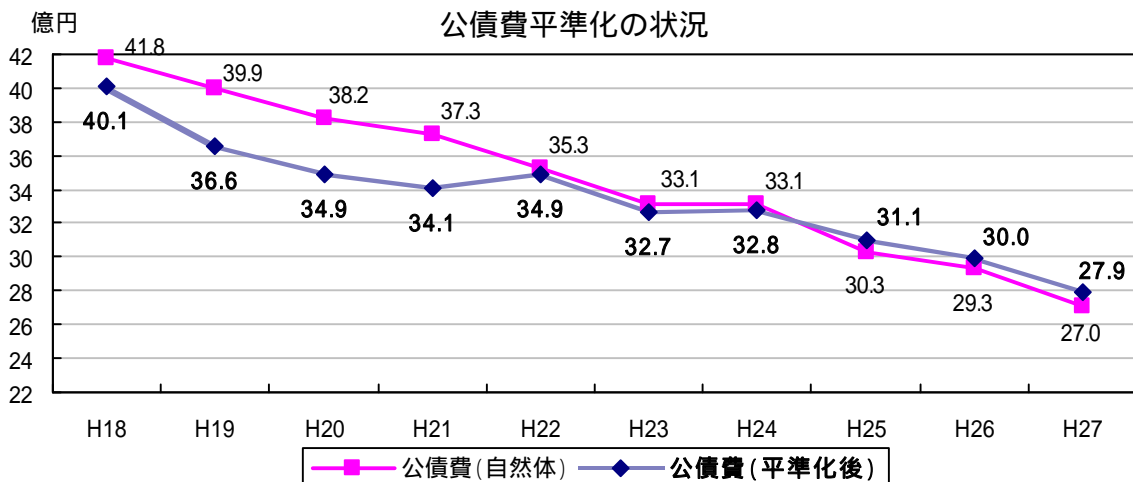
図7 市債残高の推移



注：H19は予算ベース

資料：各年度決算統計

図8 公債費平準化の状況



3 公債費平準化？

平成18年度は、市独自の取り組みとして、既に借入している市債の中で、施設の耐用年数に比して償還期間が短いものを抽出し、耐用年数に即した償還期間に設定しなおして借換えを行い、公債費の平準化を図りました。

平成19年度以降については、国の方針で、合併をした市町村で、実質公債費比率が高い自治体に対して、国や郵便局から借入している市債を、補償金無しで借換することが優先的に認められることから、本市も本方針に則り積極的に借換を行い、公債費負担の低減を図っていく予定です。

補償金...借換を行う際に、残額の利息に相当する額を補償金として借換額に上乗せして支払う制度

(5) 実質的に市が抱えている債務の残高

平成18年度末の市債残高約367億円（市民1人当たり約60万円）というのは、あくまでも市の一般会計のみの額です。これに下水道事業などの他の会計の額を加えると約592億円、さらに公債費に準ずる債務負担行為(4)を加えると約610億円にもなります。また、市が加入している一部事務組合の残高（石狩市分は仮に負担割合などを用いた場合で算出しています。）は約71億円、石狩市土地開発公社の借入金残高は約61億円となっています。この返済にあたっては、上下水道料金や土地の売却代金などもありすべて税金でまかなうものではありませんが、これら実際に石狩市が抱えている債務の残高は、すでに**742億円**、市民1人当たりでは**120万円**を超えています（表3参照）。

なお、国民健康保険事業特別会計は恒常的な赤字体質に陥っており、近年赤字額の増加傾向に歯止めがかからない状況になっております。この赤字額を補てんする方法として、**前年度繰上充用金(5)**を用いていますが、その額は約10億円になることから、この累積赤字額も実質的な市の債務といえるでしょう。

4 債務負担行為？

5 前年度繰上充用金？

債務負担行為：債務負担行為とは、地方公共団体が物件を購入したり、施設の管理委託をしたりする場合、契約は当該年度に行いますが、その支払いなどの債務が将来にわたって発生する場合、議会の承認をもらって複数年度の歳出を見込む行為をいいます。なお、ひとくちに債務負担行為といっても、施設の委託料を複数年度契約するものも含まれますので、表3ではこのうち公債費に準ずる債務負担行為に係るものを載せています。

前年度繰上充用金：会計年度経過後、その会計年度（平成18年度）の歳入が歳出に不足する場合は、翌年度（19年度）の歳入を繰り上げて、その年度（18年度）に充てることができ、このお金を前年度繰上充用金といいます。

表3 市及び一部事務組合等における債務の残高

(単位:千円)

区分	内 訳	年度末残高
石狩市	一般会計	36,614,883
	国民健康保険診療所特別会計	11,202
	土地取得特別会計	41,386
	下水道事業特別会計	12,652,818
	特定環境保全公共下水道事業特別会計	1,373,889
	個別排水処理施設整備特別会計	200,128
	介護サービス事業特別会計	378,442
	水道事業会計	6,112,781
	簡易水道事業会計	1,774,529
	小計	59,160,058
	公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	1,806,033
	計	60,966,091
	一部事務組合	石狩北部地区消防事務組合
石狩湾新港管理組合		4,978,092
石狩西部広域水道企業団		1,975,353
計		7,081,656
石狩市土地開発公社	借入金残高	6,102,340
計	+ +	74,150,087

市民1人当たりでは約121万円

国民健康保険事業特別会計	前年度繰上充用金	1,024,172
--------------	----------	-----------

4 財政運営の健全度

地方自治体の財政運営の健全度を図る指標として、経常収支比率、公債費負担比率、公債費比率、起債制限比率、財政力指数、実質収支比率などの指標がありますが、ここでは、次の5つの指標（財政力指数を除き、数値が低いほど健全であるといわれています。）についてご説明します。なお、数値及び順位は平成18年度のものであり、順位は健全なほうから数えたものを用いています。

(1) 経常収支比率 92.8% **道内35市中20位**



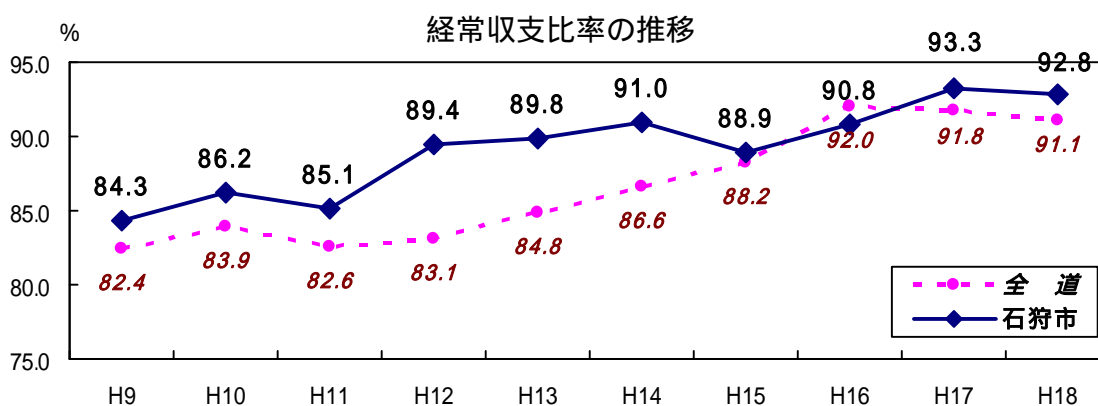
(平成17年度) 93.3% **同18位**

自治体の財政にどれだけ自由に使えるお金があるのかを示す指標を経常収支比率といいます。経常収支比率は、市税や地方交付税のように毎年度経常的に収入される一般財源（使い道の決められていない財源）が、人件費や公債費など経常的に支出される経費にどの程度充てられているかを示す指標です。

一般的には都市にあっては75%、町村にあっては70%程度が適当と考えられ、これを大きく超えるとその自治体は弾力性を失いつつあるといわれています。

図9は、全道(市)の平均値と実績値の推移を表わしたもので、平成18年度決算は、前年から見ると減少に転じていますが、依然として道内平均を上回っている状況にあります。この傾向の要因は、収入の大幅な減少に加え、扶助費等の義務的経費の増加によります。

図9 経常収支比率の推移



H13以降は減税補てん債・臨時財政対策債を含みます。

資料：各年度決算統計

(2) 公債費負担比率 21.3% **道内35市中 位**

(平成17年度) 18.1% **同11位**

公債費負担比率とは、一般財源総額に対する公債費に充当された一般財源（一時借入金
利子等を含む）の占める割合です。

一般的には15%が警戒ライン、20%を超えると危険であるといわれています。

平成18年度の公債費負担比率の伸びは、北石狩衛生組合吸収による組合の債務分が一
般会計に加わったことが主な要因となっております（ただし、これまでの組合時代にも負担
金として公債費を支払っていたことから、公債費の支払総額自体は変わっておりません）。

(3) 公債費比率 19.6% **道内35市中28位**



(平成17年度) 18.0% **同16位**

地方公共団体における公債費の財政負担の度合いを判断する指標の一つで、地方債元利
償還金（普通交付税において災害復旧費等として基準財政需要額に算入された部分を除く）
に充当された一般財源の、標準財政規模(6)に対する割合です。なお、平成18年度の増加
の要因は(2)と同様となっております。

6 標準財政規模？

地方公共団体の標準的な状態で収入されると見込まれる一般財源（市税、地方交付税、
地方譲与税の合計額）の規模を**標準財政規模**と言います（平成18年度は約144億円）。この
額は、標準的な行政活動に必要とされる一般財源の総量を示すため、主に財政分析や財政
運営の指標算出に用いられます。

(4) 起債制限比率 12.9% **道内35市中16位**



(平成17年度) 12.5% **同14位**

市債の発行を制限する指標で、地方交付税による措置の状況を的確に反映させた一般財
源に占める公債費の割合で、この比率が20%以上になると市債の発行が制限されます。

(5) 実質公債費比率

20.4%

道内35市中28位



(平成17年度) 19.9% 同25位

考え方は起債制限比率と同じですが、新たな要素として、特別会計に対する繰出金、一部事務組合に対する負担金及び債務負担行為の中で元利償還金に準ずる要素を加えて計算します。

つまり、この指標からは、地方交付税による措置の状況を的確に反映させた一般財源のうち、最終的な用途が公債費であるものの割合がわかります。

また、この比率が18%以上になると、市債の発行の際に都道府県知事の許可が必要となります。

(6) 財政力指数

0.545

道内34市中8位



(平成17年度) 0.528 同8位

ひとつの自治体が平均的な仕事をするために用意しなければならない財源と、実際に集めることができる税金は必ずしも一致しません。大まかにいうと、この平均的な仕事をするための財源と自前の収入との比率を財政力指数といい、この指数が1未満（実際に集める税金の方が少ない）だと普通交付税(7)が交付されます。

7 普通交付税？

地方公共団体が平均的な仕事をするために必要な財源を保障する制度が地方交付税です。全国の自治体は平均的な仕事をするために、十分な税金を独自で集める力がある団体と、そうでないところがあります。そこで、全国で集めた税金（国税）の一部をあらかじめプールしておいて、力の弱い団体の財政を補います（財政調整機能）。また、現在の自治体の仕事は、国の方針、基準により義務づけられたものが多くあり、そのため、財源は地方交付税を通じて国が保障しています（財源保障機能）。地方交付税の大半（94%）が普通交付税で、残りの6%が特別交付税です。特別交付税は災害などのその年の特別な事業に対して交付されます。

～今後の動向～

平成19年6月に「財政健全化法」が成立し、市の財政状況を示す新たな指標が作成されました（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率）。今後はこれらの指標を用いて財政状況を議会や市民の皆さんに報告していくこととなります（適用は20年度決算から）。（平成18年決算をベースに試算した結果については、【市のホームページ】 【組織別目次：財政部財政課】 【財政健全化基準】内（<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/content/000017110.pdf>）にてご覧になれます。）

5 財政再建計画

(1) 再建計画策定の背景

これまでご説明した、本市の財政がおかれている状況を端的にまとめますと、

公債費、扶助費等の義務的経費の増加による財政の硬直化
市税等の自主財源の伸び悩みと交付税等の依存財源の削減
による収支不足の発生

収支不足を補う基金の枯渇

という3点になります(図7・8参照)。

これら3つの状況が発生する要因は、国レベルでの交付税の削減、道レベルでの景気回復の遅れ等、複数の要因によるものですが、根本的な要因としては、石狩市自体がそれらの外的要因に対して耐えうる基礎体力が欠如しているということが挙げられます。また、これまでは外的要因の緩衝材として重要な役割を果たしていた基金についても、^{かんしょうざい}で述べたように、今後は頼ることが出来ないため、まさに瀬戸際に追い込まれた形になってい

基金という余裕を失い、かつ交付税の削減などの外的要因が、これからも市財政に大きな影響を与える可能性がある中、基礎体力を持った財政基盤を確立しなければ、財政再建団体(。)への転落の可能性が現実的なものになってきました。



図7 地方交付税等の決算額の推移

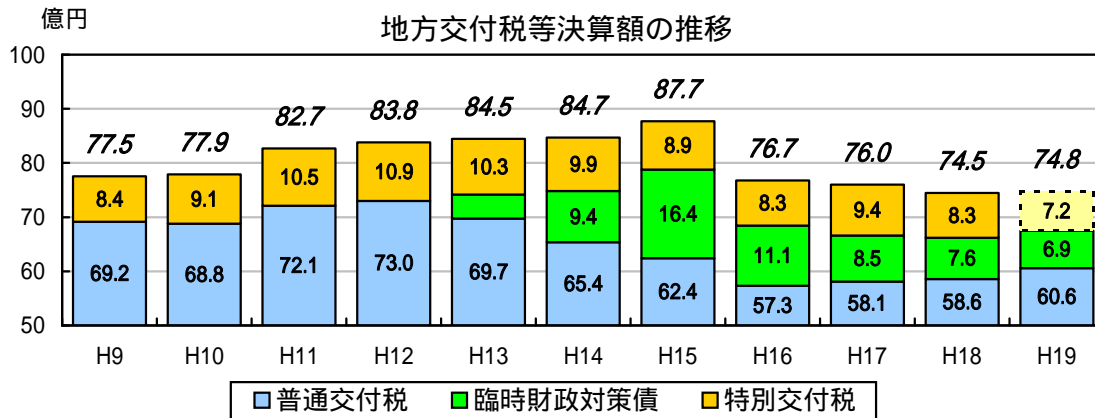
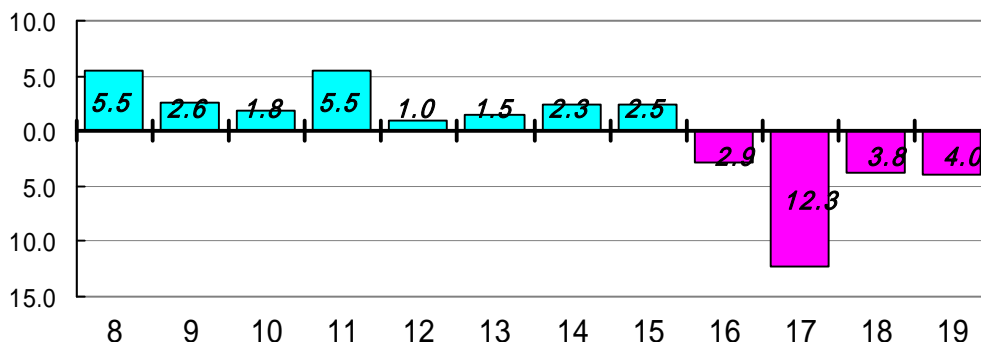


図8 財源補てんをしなかった場合の収支

(億円)



8 財政再建団体？

地方財政再建促進特別措置法(以下「再建法」)では、標準財政規模(市税、地方交付税、地方譲与税の合計額。平成18年度は約144億円)の20%以上(本市本年度予算の場合およそ29億円の赤字)が生じた市町村は、再建法に基づく財政再建を行う場合でなければ、地方債の発行ができなくなります。

この場合、再建法に基づかない「自主再建」を選択することも可能ですが、国直轄事業を除く公共事業、投資単独事業及び財政健全化債などの発行ができなくなるため、事実上、行財政運営が不可能となります。このため、再建法に基づく「財政再建団体」(正式には「準用財政再建団体」という。)、いわゆる“赤字再建団体”として、国の管理下で再建を図ることが一般的です。

行政への主な影響

- ・ 事業費の抑制(補助事業以外の市単独事業の原則禁止)
- ・ 職員の人員・給与の削減

市民への主な影響

- ・ 各種施設の使用料・手数料等及び市税の引上げ
- ・ 単独事業禁止に伴う各種団体への助成金の大幅削減
- ・ 国の制度を越える医療扶助の廃止

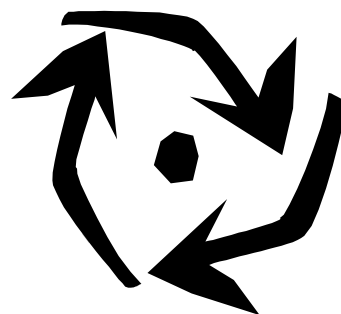
計画実行評価改善 (2) PLAN-DO-CHECK-ACT

(1)で述べた3つの構造的な弱点を解消して、弾力性のある財政構造の確立を目指し、「石狩市財政再建化計画」は策定されました。

今回の再建計画は、赤字再建団体の回避、更には財政収支の均衡を図るという絶対的な命題が目標として掲げられているため、今までの改革以上の質が求められます。

そこで、再建計画をより実効性のあるものにするため、PLAN(計画)-DO(実行)-CHECK(評価)-ACT(改善)(以下PDCA)を1サイクルとするチェック体制を確立しています。

すでに、平成19年度予算についてPDCAを行い、平成20年度予算にその結果を反映させる作業を行っております。



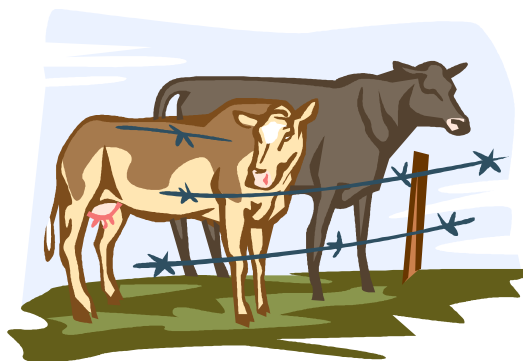
なお、再建計画の詳しい内容につきましては、別紙「石狩市財政再建計画」にて説明しておりますので、御一読頂ければと思います。

おわりに

平成16年2月に初めて「石狩市の財政 2003」を発行して以来、市民の皆さんからいくつかご指摘をいただいております。

今回発行の「石狩市の財政 2007」では、これまでの解説に加え、文字ばかりにならず、視覚的に読みやすい形になるように作成しました。今後も、さらにわかりやすい資料となるよう、たくさんのご意見をいただければ幸いです。

なお、最後になりますが、今後はより一層市民の皆さんのニーズや、視点、コスト感覚を重視した都市経営を進め、将来の子どもたちへ安心して引き継いでもらえるまちとなるように努めてまいりますので、皆さんのご協力をよろしくお願いします。



発行：平成20年 2月

編集：石狩市財政部財政課

TEL：(0133) 72 - 3154

FAX：(0133) 74 - 5581

〒061 - 3292 石狩市花川北6条1丁目30番地2

